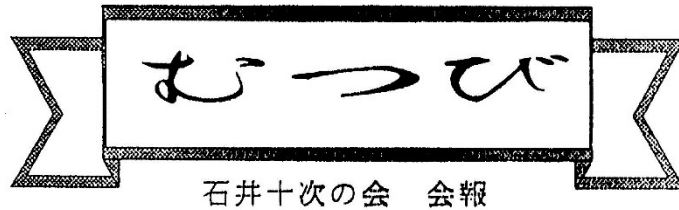


2021年  
(令和3年)  
6月10日



285号

## コロナ禍における石井十次の会活動

石井十次の会  
会長 橋田 和実

初夏の候、会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。令和2年に引き続き令和3年も新型コロナウイルス禍で大変な年を迎えております。全世界そして全国で感染防止対策並びにそれに伴う経済対策が行われていますが、止むことなく、国民全体が疲弊してきております。人類が百年に一度の試練を与えられているような気がしてなりません。

コロナ禍によって社会環境もかなり変化してきました。マスクをしたままの授業や話し合いが日常となり、国家間はもとより、国内において県と県の交流まで自粛を余儀なくされております。大都市と地方で別れて生活している親、子、孫の再会もままなりません。スマホやパソコン通信によって人間同士が直接語る機会が少なくなりました。生活苦、人間疎外感、運動不足で不平不満が募り、心身の健康までおびやかされています。少しでも早くワクチンの普及によって収束に向かって欲しいと願うのみです。

さて、今年も昨年と同様コロナ禍の中で、石井十次の会の総会は中止となりました。また、宮崎県に独自の緊急事態宣言が発令されたことを受け、代表役員会も開催を見送ることとしました。代表役員による書面決議を行い、令和2年度活動、決算報告そして令和3年度事業計画や予

算の承認をして頂きました。コロナ禍で活動は少なくなったものの、皆様方のご協力とご支援により、良好な決算で締めくくることができました。それらの結果は皆様方には、後日別紙にてご報告させていただきます。また、友愛社卒園生に対する卒園祝金（6名分）を贈呈するとともに給付型奨学金を2名に差し上げました。有難いことに新規会員も増え、会費納入と併せて石井十次の会と奨学金基金に対してたくさんの方々からご寄付を賜り、充実した活動に寄与しております。毎月発行しています会報「むつび」の編集活動も、益々充実してきております。事務局も局長と二人の職員が、事務処理はもちろん、ガイドや会員のお世話そして整理整頓に精を出して頂き、快適な方舟館対応となり来訪者の皆さんが大変喜んでおられます。また、私事ではございますが、本年2月から再び西都市長を拝命しました。石井十次の会についても引き続き会長をさせていただくことが代表役員会で決まりました。どうぞこれからも皆様のご指導とご協力を宜しくお願い申し上げます。

石井記念友愛社の前の田んぼには、今年も4月17日から5月15日まで鯉のぼりの掲揚が行われ、コロナ禍で曇りがちな友愛園生や保育園生、そして訪れた市民の皆様を大いに元気づけてくれました。また、4月末には友愛園生や職員の皆様による田植え（手植え）も行なわれ、石井十次の精神を受け継いだ農作業（労作）を通しての人財育成がなされています。

自然豊かな友愛社ではコロナ禍に負けず、自然と共生して事業活動が推進されていることは誠に喜ばしく力強い限りです。

最後になりましたが、皆様のご健康とご活躍を祈念し、本会にご協力・ご支援いただいていることへの感謝を申し上げ、末筆といたします。

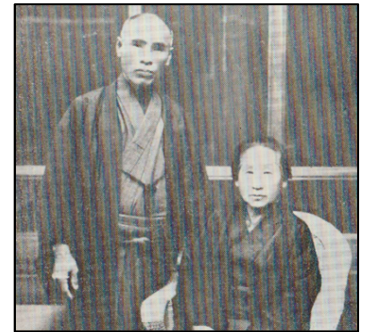
## 1. 正一に大志あり

柿原正一と政一郎は父子である。そして正一は政一郎の父である。正一は元治元年（1864）高鍋村道具小路の鷹匠たかじょうの家に生れた。石井十次より1歳年上である。ともに私塾・晩翠学舎ばんすいがくしやで学んだ。正一は貧しく学校に行けなかったが、大志を抱いていた。原野の開拓である。新田村湯風呂ゆふろの国有地の払下げを受け、同志と共に開墾を行った。初期には自給自足が困難だったため、正一は県庁に勤めながら開墾に従事した。長男・政一郎が成長し学資が必要になると、大阪区役所に就職し、後には住友に勤めた。政一郎が大学を了えると勤めを辞め、湯風呂に帰って開拓に従事した。

彼は農民であると同時に能吏でもあった。金銭にも明るく常に収支を計算した。貧しい生い立ちから弱者への心配りがあった。政一郎はそんな父の背中をみて育った。

## 2. 正一、幼くして両親と死別、若くして結婚へ

正一の母・ときは11歳の時に病死し、14歳の時には父・正幸まさゆきが西南戦争に高鍋隊として従軍し、田原坂で戦死した。明治11年、正一は島田小学校を卒業すると、代用教員に雇ってもらった。夜は晩翠学舎に通った。翌年石井十次も入塾して一緒に勉強した。晩翠学舎は藩校明倫堂が閉校になってのち、中等教育の場がないことを憂慮した旧藩士・田村たむら義勝よしかつが開いた私塾で漢学を教えた。四書五経を素読から学んだことが正一と十次の精神的成長に大きく役立った。家に女手がなくて困るので17歳で嫁をもらった。嫁はやはり西南戦争で戦死した田中増衛たなかますゑの長女・きみである。石井十次のいとこだった。きみは貧乏世帯に行くのを嫌がったが、「3日でよいから」といわれて嫁に来た。3日経って荷物をまとめて実家に帰ると、「本当に帰る奴がいるか」と叱られてまた婚家に戻った。後年、きみはこの話をして家族を笑わせた。そんなきみを柿原家では「こんな貧乏世帯によく来てくれた」と大事にした。



正一・きみ夫妻（金婚式）

## 3. 長男・政一郎誕生す



妻をもらった正一は将来の計画を立てた。原野を開拓し新しい農業を興すことが夢であった。明治16年に長男・政一郎が生まれた。正一は理想を持ちながらも生活基盤をつくり、政一郎に教育を受けさせたかった。正一は宮崎県庁みやまきに雇として就職した。

政一郎　そこで大蔵省から出向していた中山尚之介なかやましようのすけを知る。中山は博学多才だったが親切な人柄だった。正一は中山から多くのことを学んだ。中山も無学な正一が並々ならぬ才能を秘めているのを見抜いた。正一は中山に大阪に出て法律を勉強したいと打ち明けた。中山は大阪府庁に転任するよう骨を折ってくれた。明治19年、正一は大阪府租税課に就職した。妻子を大阪に呼んだ。翌年、きみの弟・田中正善たなかまさよしがいとこの十次の岡山孤児院を手伝うこととなり、きみは政一郎を連れ正善に同行して岡山に行った。子供だった政一郎ははじめて十次に会った。この出遇いは政一郎の将来を決定づけた。正一は関西法律学校夜間部に入学したが、府庁の仕事は多忙で勉強は進まなかった。政一郎は曾根崎小学校で田舎者扱いされて通学をいやがり、金を持ち出して買食いするようになった。政一郎には大阪の生活が合わないのを知り、正一は宮崎に帰ることにした。その前に上京し中山尚之介に会って今後の相談をした。鹿児島出身の農商務省次官まへだまさな前田正名に会い、進んだ農業政策について教えを受けた。彼の計画は固まって行った。宮崎に帰るとまた宮崎県庁に就職した。

（次号に続く）

## 《 お し ら せ 》

### ★新会員のご紹介（敬称略）

【高鍋町】上野 貴美子 岩切 和徳  
【都城市】(株)ながやま (有)エイゼン永山  
【国富町】(有)ハウスクリエイト  
【宮崎市】北村 康広  
【新富町】小山 早苗  
【京都市】千田 悦子  
【西都市】中武 久充 田中 尚子

### ★ご寄付をいただきました（敬称略） （一般）

【宮崎市】溝尻 輝政 岩見 智子  
岩見 彩乃  
【都城市】西園 康朗  
【高鍋町】蟻塚クリニック  
【西都市】黒木 良直  
【東京都】柳田 せい子 小林 敦子  
【豊川市】和田 鈴子  
【鹿児島市】千堂 洋一  
【岡山市】佐藤 晃一  
【京都市】千田 悦子  
【長浜市】奥村 須磨子

### （奨学金基金へ）

【宮崎市】山崎 正彦 山崎 美智枝  
石井 貴子 溝尻 輝政  
黒岩 高広 大松 繁光  
松尾 フジ子 河野 直佐  
村田 順子 中村 幸子  
日高 磨悠子 原野 茂盛  
【都城市】荒木 秀一 平井 良子  
山下 正男 山下 和子  
朝倉 脩二 朝倉 信子  
【延岡市】山崎 きよ子 小原 三枝子  
【西都市】野村 健一 鬼塚 長幸  
那須 政治  
【高鍋町】高橋 紀子 高橋 裕子  
いとう 歯科医院 日高 義朗  
【木城町】半渡 英俊  
【三股町】小倉 幸利  
【高原町】濱野 尋子  
【美郷町】戸高 孝敏  
【北九州市】細井 勇  
【大分市】植木 洋子  
【京都市】沖原 美樹  
【東京都】富田 速人 山岡 雪子  
毛利 尚武 毛利 洋江  
坂田 眞樹 坂田 由美  
【岡山市】馬場 敢  
【横浜市】浦 初恵  
【名古屋市】田爪 光信

★ 4/21～5/20の資料館来館者  
団体・グループ 0人  
個人 33人 合計 33人

ここまでの掲載者は編集委員会開催の都合により5月20日までのものとしています。

### ●資料館ガイド研修会の報告

4月22日（木）午後1時～2時まで、石井十次資料館のボランティアガイド研修会を開催しました。ベテランガイドの永田克己氏を講師に迎え、むつび編集委員5名全員、友愛社職員、それに宮崎支部会員3名の計9名が受講しました。

まず、研修館で〈見学のおしり〉を基に講話を聞き、次に園内を見学しました。最後に資料館に入場し、永田氏のていねいな説明で、より理解が深まりました。これからのガイド要請に応じられる様、一層の自己研鑽に努めようと思いました。

\*資料館等のボランティアガイドを募集しております。事務所職員や編集委員にお気軽に声かけ下さい。お待ちしております。



ボランティアガイド研修会参加者

### ★7月号の通信発送作業

7月12日（月）9時から印刷・製本  
13日（火）9時から製本・発送

### ※ 編集後記

「むつび」巻頭は橋田和美会長からの寄稿です。鯉のぼり掲揚にもご参加くださいました。西都市長としてもご多忙な中、感謝申し上げます。

・・・文責 徳地

この会報は、宮崎県を中心に全国 1700 余の個人・団体に毎月送付しています。

社会福祉法人 石井記念友愛社  
後援会「石井十次の会」

☎ 884-0102

宮崎県児湯郡木城町大字椎木 644-1  
TEL/FAX 0983-32-4612

メール [yuuaisya-jyuujinokai@ki-jo.jp](mailto:yuuaisya-jyuujinokai@ki-jo.jp)